

実用的な抽出調査を自ら企画してみよう ～途上国での方法を日本に活用するには～ 日本の事例

国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター
細澤麻里子

2025.10.29 第84回日本公衆衛生学会総会

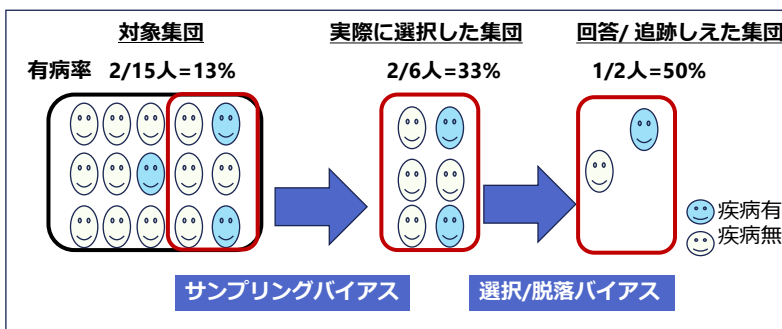
1

調査研究を行う際に重要なこと

調査研究を行う際に重要なこと

バイアス（系統誤差）を考慮する

- 選択バイアス：参加者の選択に偏りがある



選択バイアスを極力減らした調査をしたい。

-
- ・サンプリング段階での工夫
 - ・調査実施段階での工夫

- 情報バイアス：データの収集や変数の定義方法に偏りがある
例) 測定誤差、誤分類、想起バイアスなど

Copyright © JIHS. All Rights Reserved

2

サンプリングバイアスに対する工夫

サンプリングバイアスに対する工夫：日本における住民調査の例

【研究名】 コロナ禍における住民の皆様健康状態に関する調査

【研究の目的】 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）罹患後の罹患後症状や合併症、心身の健康状態および社会経済状況について実態を明らかにする。

【主要なリサーチクエスチョン】

- COVID-19罹患患者における罹患後症状や合併症の発生率はどのくらいか？
- 非感染者と比べて、有症状者の頻度は多いのか？

→COVID-19感染者と非感染者における、罹患後症状を含めた健康を比べる研究を立案

地域	大阪府八尾市（人口26万人）
感染時期	小児（5～17歳）/成人（18～79歳）： 4～6波
調査時期	2022年11月

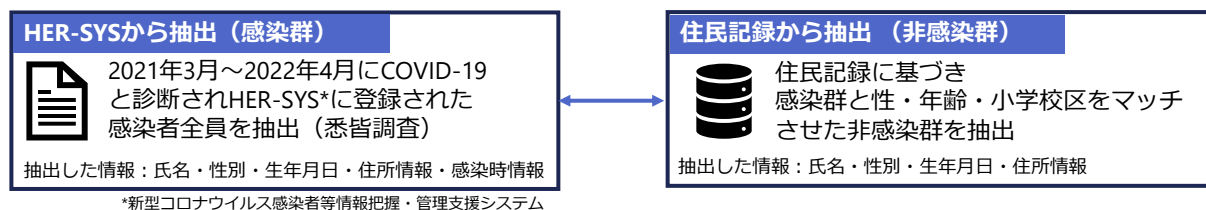


Copyright © JIHS. All Rights Reserved

3

サンプリングバイアスに対する工夫

対象者の抽出方法（サンプリング）



【具体的な手順】

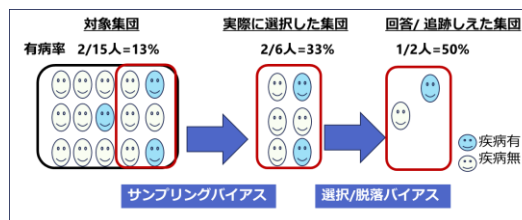
1. 感染者をHER-SYSから抽出（感染者群の特定）
2. 住民記録と全期間のHER-SYS情報を突合し、住民記録から感染者を除外（非感染者を特定）
* 突合は、氏名・住所・生年月日で実施。この際に死亡者や転出者も両群から除外。
3. 非感染者の中から、感染者と性・年齢・小学校区がマッチする者を1：1となるように無作為抽出（代表性のある非感染者群の特定）
4. 感染者群と非感染者群をあわせて研究用IDを付番し、調査対象者リストを作成
5. 調査対象者リストに基づき、郵送調査を実施

Copyright © JIHS. All Rights Reserved

4

選択バイアスに対する工夫

選択バイアスに対する工夫：郵送調査における回答率向上



1. 調査案内の工夫

見やすくわかりやすい説明文書の作成

2. 質問紙の工夫

- 質問数を制限
 - 小児本人（11-17歳）：9問
 - 保護者（5-17歳）：48問
 - 成人（18-69歳）：45問
- 5～59歳はオンライン回答、60歳から79歳はマークシート式

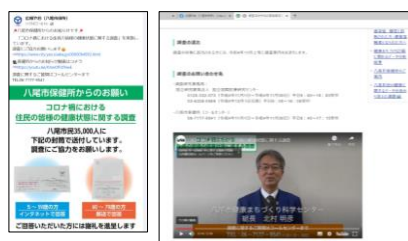
Copyright © JIHS. All Rights Reserved

5

選択バイアスに対する工夫

郵送調査における回答率向上に向けた取り組み

3. 広報：市の広報媒体でアナウンス



リマインド：広報や葉書でリマインド



4. 謝礼：回答者全員に謝礼

年齢区分別回答率	小児（5～17歳）	成人（18～59歳）	高齢者（60～79歳）
1年目調査 送付者	8167人	22,634人	4,051人
回答者（回答率）	3,484 (42.7%)	6,829人 (30.2%)	1,819人 (44.9%)
2年目調査	2,378/3,439 (69.1%)	4,820/7,404 (65.1%)	—
3年目調査	2,004/2,225 (90.1%)	4,027/4,490 (89.7%)	—

2年目調査以降は69歳までを対象とし、オンライン調査のみとした

Copyright © JIHS. All Rights Reserved

6

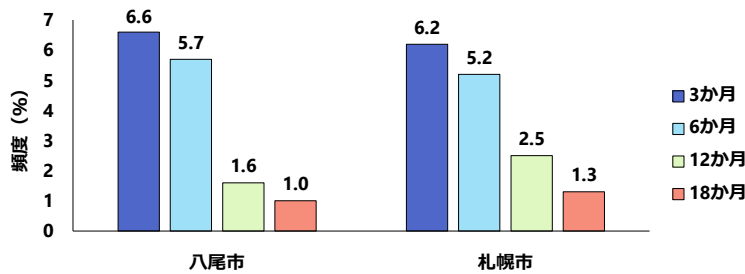
測定誤差を減らす工夫

測定誤差を減らす工夫：標準的指標を用いる



調査名	新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査 北海道札幌市	コロナ禍における住民の健康状態に関する調査 大阪府八尾市	コロナ禍における区民の健康に関する調査 東京都品川区
調査時期	成人（20～64歳）：1～6波 小児（5～19歳）：1～7波	成人（18～79歳）：4～6波 小児（5～17歳）：4～6波	成人（20～69歳）：7波
調査期間	2023年3月	2022年11月	2023年1月～2月
対象者	成人：7,969人 小児：113,925人	成人：26,685人 小児：8,167人	成人：51,822人
追跡調査	1年目、2年目、3年目	1年目、2年目、3年目	1年目

罹患後症状を有した小児の割合の経時的変化（5～17歳）



感染者数 1124人（60.7%） 4122人（29.0%）
（全体有効回答率）

初年度と2年目の調査結果に基づき18か月以上追跡したものに限定して算出。
令和5年厚生労働科学研究 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001287255.pdf>

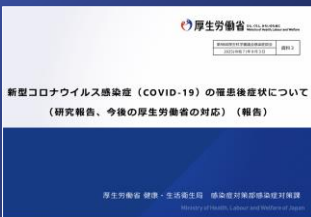
対象人数や回答率が異なる2地域において、質問文を統一した結果、類似した結果が得られた。

可能な限り標準的指標を用いることで、調査間の比較も可能となる。

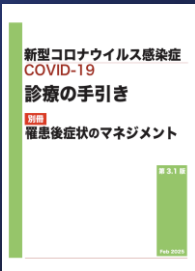
Copyright © JIHS. All Rights Reserved

7

研究成果の政策活用



厚生科学審議会（感染症部会）で公表



「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント 3.1版」に記載

謝辞：

調査にご協力いただきました八尾市の皆様に深謝申し上げます。

共同研究者：

国立健康危機管理研究機構危機国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター

堀幸、射場有紗、河野英子、六藤陽子、小林知晃、有村悠子、磯博康

八尾市保健所

北村明彦、羽山実奈、高山佳洋

令和6年度の調査結果は、

10月31日（金）第24分科会 第14会場にて発表予定です。

- 堀幸. 八尾市COVID-19罹患後症状調査【第1報】
2年後の罹患後症状とその関連要因
- 河野英子. 八尾市COVID-19罹患後症状調査【第2報】
長期的な罹患後症状が社会経済状況に及ぼす影響

本発表内の調査は厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の助成を受けて実施しました。

Copyright © JIHS. All Rights Reserved

8